

茶の湯 文化学会 会報

第113号 / 2022年6月24日

発行 茶の湯文化学会

京都市左京区下鴨森本町15

生産開発科学研究所内

〒606-0805

TEL 075-702-9270

FAX 075-702-9314

E-mail:chanoyu@oregano.ocn.ne.jp

https://www.chanoyu-bunka-gakkai.jp/

No.113

茶道を含む芸道の今後について

—文化庁の調査を巡って— 矢野 環

文化庁による調査群

文化庁の京都への完全移転は令和5年（二〇二三）の連休頃に延期されている。令和4年の12月に新庁舎建屋が完成し、形式上は令和4年度中に中核組織が移るといふ。東山安井に文化庁地域文化創生本部が来たのは平成29年（二〇一七）四月であった。

文化庁は既に昭和62年から文化に関する調査を行っていた。平成8、15、21、28、令和元〜2年と文化全般の調査が行われ、文化庁の名の元に報告された（註1）。そして地域文化創生本部は京都に於いて直ちに生活文化の調査を開始する（註2）。目的としては各分野の振興の方向性を探ることにある。平成29年度 生活文化等実態把握調査事業 調査と報

告（註3）、平成30年

度 食文化、令和元年

度 団体調査と報告、

2年度 書道・茶道・

華道各々の詳細な報告

書であり、文化庁地域

文化創生本部事務局の

名の元に公開されてい

る（註4）。3年度も

煎茶道・香道等の基礎

的な報告ができてい

る。報告書は次年度と

なる。全分野と調査並

びに報告の詳細は下記

の表を参照されたい。

この平成29・令和元

年度（特に茶道・華道・

香道・煎茶道）と2年

度の茶道の報告書は学

会員各位におかれて

平成29年報告	茶道	華道	書道	食文化	礼法	煎茶道	香道	和装	短歌	俳句	川柳	盆栽	錦鯉	囲碁	将棋	古典遊戯
団体調査報告					令元	令和元	令元	令元		令元	令元	令元	令元			
詳細報告書	令2	令2	令2	平成30												
調査研究					令3	令和3	令3	令3				令3	令3			

も、一読されることをお勧めする。

データの提示は%の円グラフ、又は積み上げ棒グラフ（横向き）で成されており、追加解析の為に実数に変換する等の必要がある。他の観点から見た概略を提示する。相互関連は解析できない。

単純な処理であるが、平成29年度の各分野の3つの質問項目に着目する。男女別人数は、男性（n=2629）女性（n=2686）であり、回答はすべて複数回答可である。

Q1 わが国には、下記選択肢のような様々な生活文化・国民娯楽があります。次のうち、子供たち、もしくは外国の人に知ってもらいたいと思うものがあれば教えてください。

Q3 生活文化・国民娯楽のうち、ご自身の趣味・習い事として経験

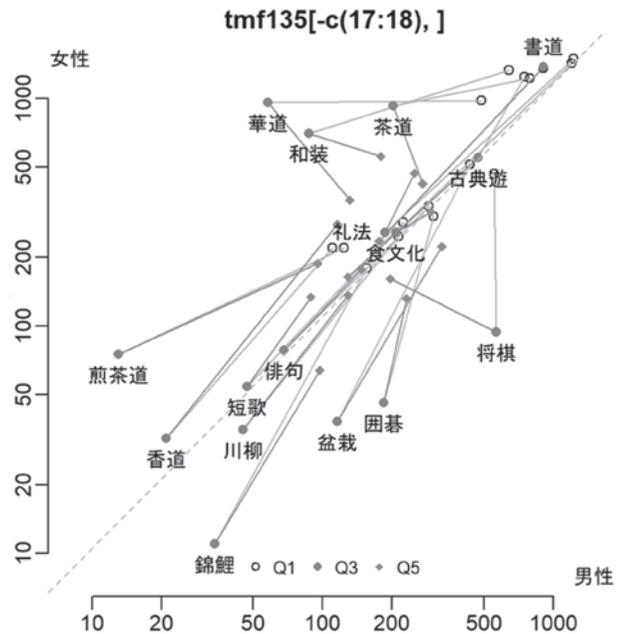
	茶道	華道	書道	食文化	礼法	煎茶道	香道	和装	短歌	俳句	川柳	盆栽	錦鯉	囲碁	将棋	古典遊	その他	特に無
Q1	2020	1467	2259	2627	2711	346	303	1977	510	638	462	946	335	606	1021	1993	53	872
Q3	1132	1016	2289	466	445	89	52	793	101	145	81	153	43	229	657	1018	100	1535
Q5	692	489	413	611	720	283	395	735	224	325	266	552	162	363	358	293	13	1717
M1	789	489	902	1203	1225	124	110	644	223	289	213	434	155	302	555	749	26	560
F1	1230	980	1356	1424	1491	220	220	1335	285	336	247	513	180	304	467	1244	27	314
M3	202	58	907	208	187	13	21	87	47	68	45	116	34	184	565	471	40	1015
F3	929	959	1381	258	258	75	32	704	54	78	35	38	11	46	94	548	59	519
M5	271	131	176	294	250	95	116	179	89	147	129	329	97	231	197	129	8	849
F5	422	357	236	317	470	188	279	556	134	177	137	223	64	132	161	164	5	868

したことがあるものを教えて下さい。

Q5 次の生活文化・国民娛樂のうち、あなたがこれまで経験したことがないので、今後経験してみたいものを教えてください。

今回のデータのうち、総回答数、男女別内訳をあげておく。Q1、Q3、Q5が、それらの設問への回答数、M*、Fは男性と女性である。公表されているのが%表示であるため、実人数を復元したが、有効数字不足により、必ずしも正確な数値ではない。例えば、M1+F1はQ1と等しくなるはずだが、必ずしもそうはなっていない。全体では18変数であるが、最後の2変数は除く方がよい場合も多い。また16変数目の「古典遊戯」は性質がことなる。よって、15変数で取り扱う場合もある。

このデータを元に、まずは、MFとなつていてるデータを、Mをx軸、Fをy軸にしてプロットするだけでも、状況が見えてくる。し



かし、六分野以外は下にまとまつており、判然としなくなる。そこで、座標のとり方を対数座標軸にすると、その部分も見やすくなる。このグラフのほぼ対角線の上部は女性が多く、下部は男性が多いことを示す。なお、対角線相当は $2629y = 2689x$ で与えられる。

習ったことのあるM3 F3は黒丸●、チャンスがあれば経験してみたいM5 F5は菱形の◆とする。書道では○と●が近接しており、学校教育の成果である。茶道、華道、和装は●からみて○が右横方向にある。華道は習った男性は少なく、水平方向右に延びるといふことは、女性は同程度の人数であり男

性が増えている。そして◆はいずれも右下に延びるので、女性はより少ないが、男性はより多い人数が機会さえあれば行ってみたいと思っている。将棋の場合は、○が●の上方向にあり、男性人数は同じでも、より多くの女性が将来に残すべきと思っている。そして◆は左上に延びている。

次に中央から下部を見る。礼法・食文化は、●は男女250人程度しか習った人はいないが、○はいずれも最高人数である。それだけ一般に認められていると云えよう。同じ煎茶道・香道は似ており、特に○と◆はほぼ同じ位置にいる。煎茶道は特に習った男性が少ない。香道は男女ともに特に少ない。短歌・俳句・川柳などは男女同数程度である。錦鯉は特殊なので、経験者も少ない。一般に、○は対角線に比較的近く、◆は真ん中あたりに集まり、つまり上部からは下がり、下部からは上がっている。

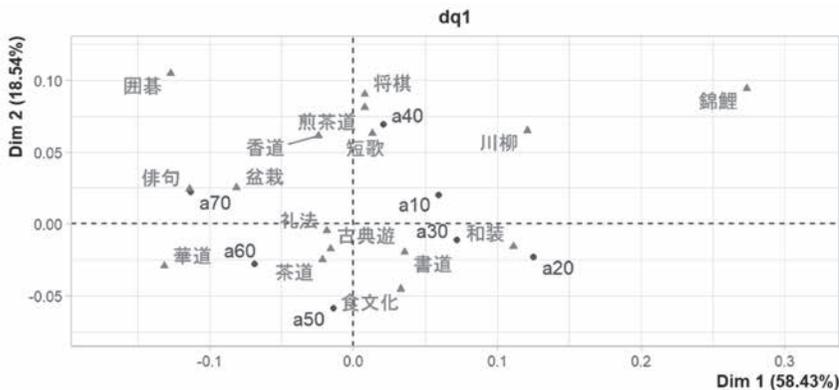
いずれの生活文化においても、○が対角線に近いということは、将来に伝えたい、また外国に紹介したいという生活文化への判断が、男女ほぼ同数であるということが確認されたという意味がある。囲碁以外は、女性が多い。

但し、5300人の調査対象において、将来へ残すものを思いつかないが872人、習ったことかみたいと思うものが無いという1717人がいるということ、多いとみるか少ないとみるか問題である。茶道の位置を再確認すると、華道・和装よりは男性が経験している人数が多く、その影響で総人数が多い。華道や和装よりも、将来に残すべきと思う人数は多く、食文化・礼法より少ない。

年代別の考察

ここでは数値を与えないが、実は年代別のデータも提供されている。それを実人数に直すとかなり

誤差もあるが、ともかく対応分析などを行うことができる。Q1についてそれを行うと左記のとおりである。ここでaで始まるものが



年代であり、a20は二十代を意味する。この図は大まかなものであり、生活文化の分野と年代の位置の単純な遠近を論じてはならない。その欠点を補った距離を求め、それを元にして系統ネットワークを求める手法があり、最初の表を処理すると、最後の図の通りである。

「茶道」ではなく、「茶の湯」という表現を広めることが重要であると、中村利則元会長は主張された。しかしまだ十分に浸透していない。

「茶の湯」を何らかの文化財に登録することも目指されていた。その第一ステップを果たせる見込みはある。

文化庁の文化創造アナリストとして学会理事・幹事が委嘱されてきたことは、今後の活動にとって大変意義あることである。

- 茶道 宮武慶之、依田徹
- 華道 井上治
- 煎茶道 船富富美子

香道 矢野環

盆栽 依田徹

今後の課題は多い。学会員各位とともに進んでいきたい。

註1 文化に関する世論調査の結果について

https://www.bunka.go.jp/tokei_hakusho_shuppan/tokeichosa/

https://www.bunka.go.jp/tokei_hakusho_shuppan/tokeichosa/

[bunka.yorinchosa.html](https://www.bunka.go.jp/tokei_hakusho_shuppan/tokeichosa/)

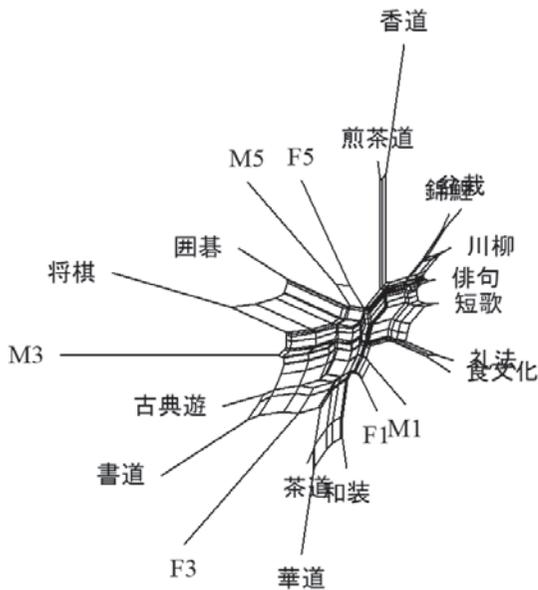
註2 初年度の11月23日には、「暮らしの文化フォーラム」を主催し、「生活文化・国民娯楽の多様性と継承」と題した。昨今の用語では「ダイバーシティとサステイナビリティ」である。

註3 生活文化等実態把握調査

https://www.bunka.go.jp/tokei_hakusho_shuppan/tokeichosa/

https://www.bunka.go.jp/tokei_hakusho_shuppan/tokeichosa/

ネットワーク図



[hakusho_shuppan/tokeichosa/](https://www.bunka.go.jp/tokei_hakusho_shuppan/tokeichosa/)

[seikatsubunka_jittai/index.html](https://www.bunka.go.jp/tokei_hakusho_shuppan/tokeichosa/)

註4 生活文化調査研究

https://www.bunka.go.jp/tokei_hakusho_shuppan/tokeichosa/

[seikatsubunka_chosa/index.html](https://www.bunka.go.jp/tokei_hakusho_shuppan/tokeichosa/)

例会

東京例会

(令和三年十二月四日)

「十八世紀茶の湯からみた武家の人的交流」

谷村玲子

第二代姫路藩藩主酒井忠以(宗雅)(宝暦五年二月～寛政二年、一七五六/〇一―一七九〇)と松江藩藩主松平治郷(不昧)そして川上不自との交流、また宗雅の親戚大名また柳沢保光(堯山)等の諸大名との交流も、宗雅の茶の湯を知る上では欠かせない。しかし今回は宗雅自会への参会または他

会での同席を含む宗雅関係茶会を基に、これまで不詳であった人々に焦点を当て、江戸という町での宗雅と女性、幕府関係者(奥医師、鷹匠、絵師)、武家茶人、蹴鞠・能の芸能者等との交流を報告した。

例えば清蓮院(十四会)は宗雅の祖父酒井忠恭の娘で、彦根藩十二代藩主井伊直禊の正室である。宝暦四年(一七五四)直禊が家督相続直後に急死した後、清蓮院は長年にわたり井伊家中屋敷(赤坂)に居住した。宗雅はしばしば清蓮院と実妹達との交流の場に参加し、特に清蓮院と侍女の会は、宗雅が女性達への茶の湯稽古を目的とした会と考えられる。また酒井家と井伊家の婚姻によって、清蓮院には甥にあたる宗雅と井伊直広が連れ立って清蓮院を訪れることもあり、婚姻を軸とする大名両家の交流を考える一例といえよう。発表における宗雅の茶の湯を通じた広い人的交流は、江戸という

町でこそ可能である。その際には江戸の中での大名屋敷や幕臣の屋敷の地理にも考慮が必要である。発表では、宗雅の藩主日記である『玄武日記』と茶会記『逾好日記』を重ねたことで、江戸における大名・武家の生活に新たな視点を加えられたと思う。

例会のご案内

※例会の日程・会場等、変更する場合がありますので、ホームページをご覧ください。または事務局までお問い合わせください。
なお、個人宛にメール等でのお知らせはしておりません。

東京例会
令和四年七月二日（土）
午後二時～
（会場：埼玉会館4A会議室）
（会場とZoomによるハイブ

リッド開催を予定）

「益田克徳の茶とその周辺」その
三 高橋箒庵の一番町邸茶室「寸
松庵」移築と茶室開き」
八木京子・神保乃倫子
「小浜藩主酒井忠義の茶道具蒐集」
依田徹

令和四年九月二十四日（土）

午後二時～

（会場：未定）

「備前肩衝茶入「布袋」の賞玩と
伝承」
荒井欧太郎

「サントリー美術館蔵《三彩鉢》
に見る木米陶芸の特徴（仮）」

安河内幸絵

令和四年十二月三日（土）（仮）

午後二時～

（会場：未定）

「益田克徳の茶とその周辺」その
四
八木京子・神保乃倫子

「続き薄茶について（仮）」

岡本浩一

令和五年二月十一日（土）

午後二時～

（Zoom開催）

「松平不昧の新しい道具づくりに
ついてー小林如泥の指物作品調査
からー」
倉澤佑佳

「高橋箒庵ー『大正名器鑑』を中
心にー」
齋藤康彦

齋藤康彦

静岡例会

令和四年五月二十一日（土）

午後三時～四時半

（会場：静岡市もくせい会館）
国際お茶の日イベント「国際お茶
の日シンポジウム 静岡の茶文
化」

化」

令和四年十月二十日（木）～二十
三日（日）

三日（日）

（会場：静岡コンベンションアー
ツセンター）「グランシップ」

世界お茶まつり協賛イベント「未
定」

東海例会

午後二時～三時半

（開場午後一時半～）

（会場：昭和美術館会議室）
令和四年九月二十四日（土）

「名物（仮）」

加藤祥平

令和四年十一月二十六日（土）

「指物と吉田家」

稲垣信斎

近畿例会

日程調整中。決まり次第、HPで
お知らせします。

北陸例会

令和四年九月三日（土）

午後二時～

（会場：越前古窯博物館）

「中村昌生設計の茶室『静古庵』
発見とその特徴」

森本英裕

令和四年九月十八日(日)

午前十時～正午

金沢例会

令和四年十月三十日(日)

午後一時半～

(会場：金沢ITビジネスプラザ

武蔵)

「前田家と」鳴海織部窯耳付き茶

入 銘 餓鬼腹」(仮)」

木塚久仁子

令和四年日時未定

移動例会 高山方面

令和五年三月(日未定)

午後一時～

(会場：未定)

「茶の湯と社会的意義／地域への

影響(仮)」

伊東 梢

高知例会

*参会希望者は予め連絡をして下さい。

午前十時～正午

(会場：高知県立文学館 慶雲庵

茶室)

高知支部二〇二三年度事業計画

新刊紹介

『茶の湯の茶碗』第三卷「和物茶碗I」

重根弘和責任編集 淡交社 定価

六、九三〇円(税込)

『茶と日本人 二つの茶文化とこ

の国のかたち』

佃一輝著 世界文化社 定価一、

八七〇円(税込)

『茶の湯ドリル』

淡交社編集局編 淡交社 定価

一、一〇〇円(税込)

『裏千家今日庵の茶室建築』

茶道資料館監修 淡交社 定価

二、四二〇円(税込)

『茶書古典集成』(全十七卷)筒井

紘一・熊倉功夫・谷 晃・谷端昭

夫監修 淡交社

(既刊)

一卷「初期の和漢茶書」

高橋忠彦・神津朝夫編集 定価八、

八〇〇円(税込)

五卷「神屋宗湛茶会日記」

筒井紘一編集 定価一、〇〇〇

円(税込)

六卷「利休の茶書」

谷端昭夫編集 定価一、〇〇〇

円(税込)

十一卷「南方録と立花実山茶書」

筒井紘一編集 定価一、〇〇〇

円(税込)

十三卷「茶話と逸話」

谷 晃編集 定価一、〇〇〇円

(税込)

※年会費未納の方は、至急払込み

願いたします。